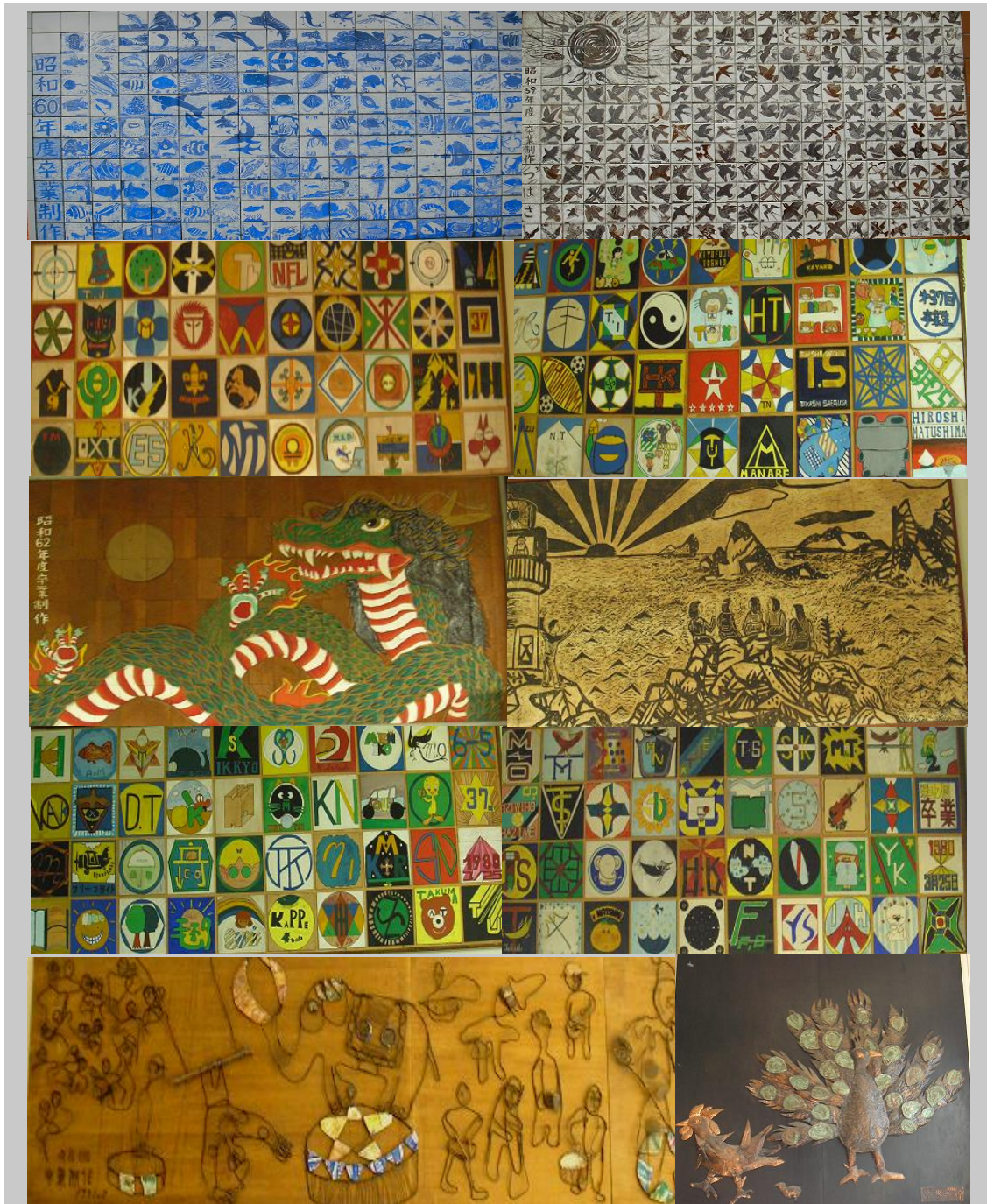


西田小学校・同窓会 会報

発行者 西田小学校同窓会

編集責任者・田村晋一郎(二期生)



卒業のおもいで

昭和40年代から昭和60年代の卒業生の卒業制作です。今も、校内に掲示されています。懐かし
く、大切なメモリアルで卒業生が再び訪れてくれるのを待っているようです。

学校より

「学び合い」の西田小学校

副校長 田端 国広先生

西田小学校は、地域に支えられ、今年72年目を迎えました。現在21学級、600人程度の大規模な学校です。西田小学校は

○ 考える子 ○ 助け合う子 ○ たくましい子の教育目標をもとに「学び合いを大切にする西田の子」の育成をめざしています。「学び合い」は、日々の授業の中で行われ、かかわり合い、認め合い、高め合いを大事にしています。

「学び合い」が心地よい人間関係を築き、社会的マナーを身に付けていきます。西田小は、たてわり活動を重視し、高学年が低学年を責任をもって見守り、低学年は高学年に尊敬の気持ちをもって成長していきます。特に「あいさつ」に関しては全学年で大切にしています。そして、松溪中学校と連携することにより、小中一貫教育に取り組んでいます。

3月にプールの改修工事が終わり、今年度の水泳指導は、とてもきれいなプールの中で行われました。子どもたちの元気な声もいつも以上に響き渡っていました。

学習発表会は、作品発表と舞台発表を隔年で実施しています。今年は舞台発表です。今年度から始まった土曜授業や日々の授業に、強力なサポートをいただいているのが学校支援本部「ニシタス」です。

ニシタスからの紹介で様々な講師からの教育活動ができました。西田の子どもたちは、教えていただいたことを学習発表会という場で発表することで感謝の気持ちを表していくと思います。子どもたちの活躍を地域、保護者、学校が支え、さらなる西田の「学び合い」がつながっていくことを願っています。

子供たちの成長を見守って

PTA会長 城石 陽子様

平成26年度 PTA 会長をつとめさせていただいております城石です。

PTA 執行部は校舎 1 階の西田小出入り口そばで主にお仕事をさせていただいております。

PTA 室から廊下側は給食室がそばにあり、外を見ると藤棚と花壇、芝生があり、めぐる季節と共に子ども達の成長を垣間見ることができます。

私はPTAのお仕事を4年ほど経験させていただいておりますが、毎年春には黄色い帽子をかぶったかわいすぎるほどの新1年生、給食室に向かい揃って感謝のご挨拶をする子ども達、運動会のために校庭に向かい芝生の上を走って向かう子ども達、笑顔でプールに向かう姿、連合運動会や音楽会など外部に向かうため整列している姿、富士学園から帰ってくる子ども達。立派に卒業していく6年生。数え切れない成長をこの場所からいろいろな思いで仲間と共に応援しております。

さらに、西田小は地域の皆様、卒業された皆様方からも暖かく見守っていただき子ども達もののびのびと成長することができます。いつも本当にありがとうございます。

私も末永く西田小を見守っていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

西田小学校支援本部は

学校支援本部長 渡辺 麗様

皆さんが通われていた西田小学校は、現在も校庭の広さと児童数の多さで、杉並屈指の元気な学校です。そこで活動しているのが、西田小学校支援本部・通称「ニシタス」です。子どもたちのより良い学校生活を支援するために、区教育委員会から主に学習支援を委託された任意組織です。メンバーは大体が卒業生の保護者や在校生の保護者で構成されています。その活動は、子どもたちがより興味を持てるような授業づくりをお膳立てすることがメインですが、他にも子どもたちが一日の多くを過ごす学校の環境を整える活動なども、学校の先生方と連携しながら行っています。具体的には学習の目的に合った専門家を講師として迎える手配や準備をします。時には授業のお手伝いをすることもあります。例をあげれば、毎年恒例の馬頭琴の演奏を聴く授業(二年

生)や箏演奏の体験授業(四年生)があります。その他には、図書室サポーター、花壇チーム、屋上芝生チーム、漢字検定チームなどのチームを組み一年間を継続して活動しています。こうした活動は、支援本部のメンバー以外にも参加してお手伝いくださる大勢の保護者の皆さんや地域の方々に支えられています。今後も、もっとさまざまな体験を子どもたちに提供したい、又、より西田小学校に合った独自の支援のあり方を考えたいと思っています。そのためにぜひ、いろいろな方のお力やお知恵を拝借したいのです。特に社会で活躍されている卒業生の皆様のお力添えがあれば、これほど心強いことはありません。活動の詳細は記事末尾のブログで公開しております。ご興味やお問い合わせがございましたら、ぜひメールまたはFAXでご連絡ください。お待ちしております。

ブログ:「ニシタス言います」<http://nishitas.wordpress.com>

メール:nkshita-shien@bz04.plala.or.jp

学校行事から

★ 卒業式 平成26年3月25日(水)

今年は91名の児童が「西田の丘」を巣立ちました。母校の卒業生総数11190名です。

昨今は「蛍の光」「仰げば尊し」を歌っていませんね。別れというよりも一つの区切りのお祝いで、新たな出発の日でもあるという風になんか変わってきたのでしょうか。

★ 入学式 平成26年4月7日(月)

どの新入生も真剣なまなざしでこれから始まる儀式に少し緊張し、かわいく行進して入場しました。驚きと不安と興味とで目は大きく、耳をそばだて、全身でとらえようとしているのがわかります。

期待に燃えた新入生も、そろそろ半年がたち学校生活になじんだころでしょう。

★ 運動会 平成26年5月24日(土)

五月晴れにめぐまれ、たくさんの競技や演技が行われました。日頃の成果を発揮すべく児童たちは元気に走り回っていました。なんといっても騎馬戦や、みんなで力を合わせた組体操が見ものでした。また、運動会の裏方をつとめた高学年の児童はみごとでした。

★ 富士学園 平成26年6月18日(水)

恒例の富士学園移動教室(5年生)がおこなわれました。児童たちはキャンプファイヤ・きもだめし・さる時計・洞窟・大自然など様々な体験をしました。

★ サマーキャンプ 平成26年7月5日(土)6日(日)

おやじの会代表 小永井 洋志様

「西田おやじの会」は、西田小児童のお父さん達の集まりで、子どもの安全を守り健やかな成長を育むことと父親同士の交流を深めることを目的に、おやじならではの視点とアイデアで自らも楽しみながら、2001年から活動しています。主な活動は、今回ご紹介する「サマーキャンプ」です。今年も西田小で、7月5日(土)から1泊2日で実施し、就学児童92名、未就学児童20名、保護者84名の計196名が参加しました。初日は、午後から「職業体験」でスタート。大人の仕事内容を理解し、仮想通貨を用いて、社会活動の基となる通貨を得て、消費する楽しさを学びます。職種も、医師(看護師)、消防、警察、清掃、銀行、レザークラフト、喫茶店、食材仕込み、フリーマーケット、レイメイキング、ハンドエステと盛り沢山。児童は、プロ直々の指導に目を輝かせます。夕食は、薪で火を熾し、校内防災倉庫に保管の鍋釜等を使い、カレーライスを作りました。手造りの露天風呂も年々大型化し、一度に児童10人以上が入れます。初日の締めは、花火とお母さん達のフラダンスとの競演で、校庭横断120連「ナイアガラの滝」も見事に成功し、盛り上がりました。参加者は、基本的に体育館に泊り、災害時を想定した夜を体験しますが、防災テントに宿泊出来る5・6年生の“特権”は、下級生の憧れです。翌朝はラジオ体操で始まり、朝食後、「空気イス」で大きな人の輪を作る『トラストチェア』やドッジボール等のレクリエーションを行い、最後に全員で体育館の掃除や備品の片付けをして、お昼前に親子共々笑顔で解散しました。



トラストチエア



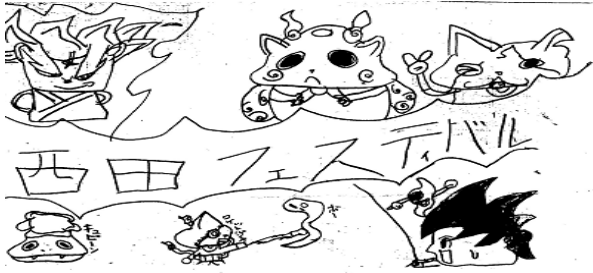
張られたテント



露天ぶろを楽しむ

「西田おやじの会」では、随時会員募集中です。

★ 西田フェスティバル 平成26年9月27日(土)



児童たちのアイデアで行われる年に1度のお祭りが9月27日に開かれ、いろいろなお店が出ていました。手作りのおもしろさが何とも言えません。とてもよくできていて感心しました。

記事 中澤



しゃてきやさん



さかなつり



スマートボールすくい

★ 秋のコンサート 平成26年11月1日(土)

恒例の秋のコンサートが開かれました。



お話と指揮

横山 淳氏

出演者

- ・杉並弦楽合奏団
- ・西田小合唱教室
- ・松溪中吹奏楽部
- ・西田小 PTA コーラスOG

★ 学習発表会 平成26年 11 月 14 日(金)15 日(土)

今年は2年に一度の舞台発表会でした。児童代表委員会のスローガン「みんなが主役 力を合わせて最高の舞台を 君の手で」を掲げて、各学年とも素晴らし舞台でした。

今年4月に入学した時は小さかった一年生が、半年でこんなにも大きく成長し「からすのパンやさん」を立派に演じました。三年生の「開催！世界宝物コンクール」は物語がよくできていました。物を大切にすること、人にやさしくする心、環境を守ること、悪いことをしてはいけないことなど宝物にのせての演技と演出は面白かったです。四年生の「ぞうれっしゃがやってきた」は動物たちに悲しい運命をもたらしてしまった戦争。その戦争の

悲惨さを訴えながら子どもたちの象を見たいという希望がかなうという展開です。経験したことのない場面の演技は大変でしたね。よくやったと感心しました。五年生の「ライオンキング」はとても有名で難しい作品ですが場面の変化をよくこなしていました。勇気をもって立ち向かう若き王を支える仲間たちの団結が大切なことを教えてくれました。二年生の「12ひきのねこがたびにでた」ははらぺこの猫たちが食べ物をさがす単純な話ですが、おもしろく演じてくれました。圧巻は六年生の「魔法をすてたマジョリン」力が入った演技、息の合った演技、歌、素晴らしい舞台でした。まさにスローガンを六年生が締めくくってくれました。感動！！

記事 中澤

環境にとりくむ

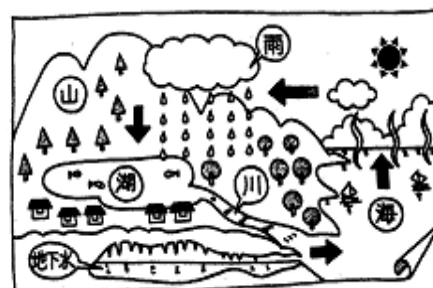
西田小学校には環境委員会があります。児童たちが清掃や整理整頓、動植物の世話など自主的に活動しています。四年生が作った句はとても素直で、私たち大人がすぐに実行しなければならないと思います。以下「西田の丘」から転載しご披露します。(ユネスコスクールの趣旨にそっての活動)



西田小環境委員会

環境と 自然の力 わすれずに
マイバック いつもお店へ もっていく
環境を よくしていこう みんなでね
エコなこと みんなまねして いいことだ
雨水は 地球をグルグル 回ってる
おいしいよ 水はきれいだ 大切に
みなさんも おいしい水を 大切に
ゴミじゃない 使えばエコだ リサイクル
うめたて地パンパンだから工夫しよう 佐々木(良)さん
節約は とても便利で やさしいな
生活に 6つのRを 使おうね
水よ水 みんなで使おう 大切に
守ろうよ この環境と この地球
スーパーに いつでも持とう マイバック
環境は みんなのために あるんだよ
買い物は もとからいるか 考えて
こわれても ちゃんと直せば 使えるよ
埋め立て地 いっぱいになる 大変だ
リサイクル みんなでゴミを へらそうよ
スーパーで ビニール袋を ことわろう
節約は 自然にやさしく 便利だな
ポテチにも ついているかも エコマーク
エネルギー 大事にしよう 大切だ

青山さん
阿部さん
犬飼さん
今里さん
尾畑さん
木元さん
國枝さん
齋藤(瞭)さん
佐々木(良)さん
三宮さん
清水さん
須藤さん
武井さん
竹岡さん
田崎さん
立岩さん
玉置さん
西山(瑞)さん
東口さん
平沢さん
藤田さん
堀田さん
八重樫さん



エネルギー 循環すれば 再利用
エコバッグ 出かけるときは 忘れずに
電気代 お金がかかり もったいない
リサイクル できるゴミは 資源だよ
電気はね いっぱい使うと お金むだ
水不足 流しっぱなしは しないでね
水がむだ 流しっぱなしは やめようね
コンセント こまめにぬいて 節電だ
むだづかい 人も自分も 気をつける
じゃ口しめ 節電をして くらそうね
節電は 心がけよう 今すぐに
節電を すれば代金 安くなる
分別だ きれいに分けて リサイクル
電気代 電気つけなきゃ あがらない
水がむだ 使わないときは じゃ口をしめよう
節電は 大切だから 取り組もう
[ばなしは無し!]これはエコへと つながるよ
むだづかい 絶対したら いけないよ
お水はね むだにしないで 使います
ぜったいねえ 夏こそやろう 省エネを
ごみを出し リサイクルをし 再利用
電気代 電気を使わず 安くなる
大切に 水はきちよう むだにしない
光電池 とても役立つ 便利だよ
暑いとき まずはおうちで あおいでみよう
絶対に 分別しよう ビンとカン
リサイクル みんなでやろう 再利用
まちがえず ゴミの分別 がんばるぞ

山口(春)さん
荒木さん
宇賀神さん
大島さん
奥山さん
尾上さん
笠原さん
加藤さん
草薙さん
小永井さん
佐々木(凜)さん
城石さん
高貝さん
高橋さん
滝澤さん
武重さん
竹田さん
辻岡さん
中島さん
東野さん
藤井さん
藤岡さん
松浦さん
森島さん
森さん
矢野さん
山口(竣)さん
山下(裕)さん



自然など いろんなものを 大切に
夏休み あつけれど せんぷうき
地球をね きれいにしたら きもちいいよ
分別は 日本のために 必要だ
夏休み 石油はあんまり 使わない
リサイクル いっぱいやって ごみへらす
地球では 地球おんだん化 おきている
環境の 水やしぜんを 守ろうよ
温だん化 みんなでとめよう 未来のために
動物が ぜつめつしそうで さびしいな
しげんはね とても大切な ものなんだ
かんきょうは 地球のために あるんだな
参加しよう かんきょうのため 節約に
節約を たくさんしよう がんばろう
大切に 水はかぎりがあるからね
これ以上 ぜつめつきぐ種 ふやさない
がんばろう エコや自然を 大切に
エコとはね ずっと使わない ことなんだ
リサイクル いっぱいやって ごみへらす
かんきょうは 大切にしたい ものなんだ
石油はね 大切にしなきゃ だめなんだ
電気はね エネルギーがなきゃ こまるんだ
自然もね とても大事な 仲間だよ
エコしよう エネルギーが なくなっちゃう
かんきょうはとっても大事な ことなんだ
節約はみんながすれば できること
リサイクル やめたら出でよ ゴミかいじゅう

安達さん
安部さん
伊勢さん
祝さん
岩田さん
大久保さん
大野さん
河瀬さん
川野辺さん
川村さん
合志さん
齊藤(愛)さん
高柳さん
中山さん
西澤さん
佐藤(健)さん
佐藤(涼)さん
菅野さん
長谷川さん
細谷さん
堀越さん
増田さん
真鍋さん
山口(広)さん
山口(唯)さん
横山さん
吉瀬さん

森林は 生き物のため 働くよ
古紙などを リサイクルして 再生紙
リサイクル すれば森林 守れるよ
環境に やさしい発電 開発中
節電に 気を使ってる ぼくの家
生ゴミを 庭に捨てたら 芽が出たよ
水力は 二酸化炭素 出さないよ
紙のむだ 表と裏を使おうね
ちょっと待て ゴミを出す前 再確認
皿洗い ためて使おう 節水だ
水のむだ 気をつかってる ぼくの家
風車はね 自然に使う 発電機
太陽光 家に置けば 節電だ
ペアリング まさつを減らす すぐれ物
発電で 波の力も 開発中
こまめにね 電気を消して 節電だ
水のむだ ため洗いで 節水だ
夏ですよ 発電はこれ バイオマス
温暖化 ソーラーカーで エコしよう
省エネな 製品今も 開発中
気をつける 電気のつけっぱ むだ遣い
バイオマス 材木燃やして 発電だ
生活の 今の時代は LED
木の減少 東京ドーム 一個分
ホラー映画 エアコンいらず エコになる
ゴミ山に しないためには リサイクル

浅田さん
井上さん
猪原さん
岩渕さん
大西さん
大和田さん
岡本さん
小川さん
小野さん
唐崎さん
久保さん
佐藤(響)さん
鈴木(皓)さん
鈴木(結)さん
園井さん
樽川さん
西山(葵)さん
平岡さん
平瀬さん
村田さん
安森さん
山崎さん
山下(杏)さん
吉岡さん
吉田さん
渡部さん



★ 今、世界中で地球温暖化、公害、化学物質おせんが問題となっています。

日本はその中でもただ一つ「原ばく」を体験し、「みなまた病」などで多くの公害をかかえ人々を苦しめてきました。子供のときから地球を守るという意識を持つことは大変にすばらしいことです。持続可能な世界を作るために、いま人類がしなければならないことは身近なところから実行することが大切だと感じさせられました。地球は生きている、空も、海も、大地もみんな呼吸している。

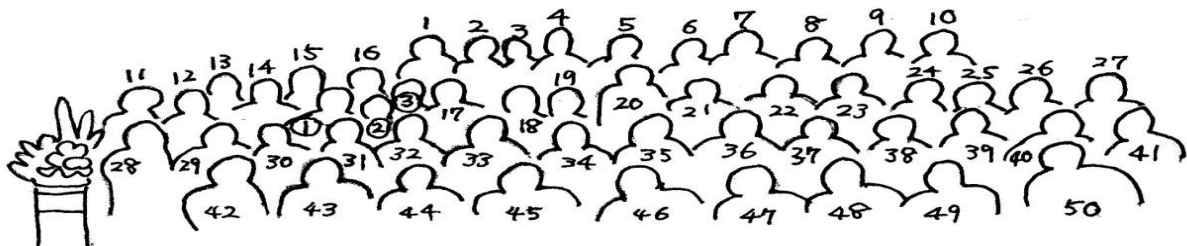


同期生よ集まろう！！

14期同期会古希を祝って

14期生(S32年卒) 小林 真人

● “チャレンジ70”14期生同期会2014年(平成26年)5月21日 於:吉祥寺第一ホテル7F「春日」



1:川崎 2:蟻川 3:間庭 4:岩村 5:岩本 6:戸倉 7:小瀬 8:館林 9:中村 10:境 11:宇田川
12:田辺 13:柴谷 14:榎戸 15:出澤 16:丑久保 ①:三浦 ②:山口 ③:加藤 17:星野 18:林
19:井上 20:大野 21:片山(健) 22:山崎 23:石川 24:小田 25:有田 26:原子 27:熊谷 28:内堀
29:村上 30:谷津 31:下田 32:塩谷 33:小口 34:羽岡 35:池田 36:碓井 37:岡崎 38:奈切
39:都筑 40:大野 41:濱 42:館村 43:新井 44:高瀬 45:宮岡 46:小林 47:片山(登) 48:半田
49:穂刈 50:信川(出席者 53名) お名前は旧姓です。

♥ 生花は、杉本アケミ(松原)さん(4組:下関市在住)から贈っていただきました。

“チャレンジ70”、地方創生のためのプロジェクト名ではありませんよ。西田小を昭和32年(1957年)に卒業し、今年生誕70年になっちゃった14期生同期会のパーティーネームです。残念なことに4名の恩師は既に鬼籍に入られ、再会を目の前にして2名の友が亡くなりました。

5月21日はなぜか前夜からの土砂降り続き。でも集合時刻には雨も上がり、オープンの午後1時には53名勢ぞろい。全国各地から10年振り、中には57年振りの再会もあり、化粧したり変化したりした容貌と名前のミスマッチ続出。しかし、お酒も入るとそんなことは気にしない。入学から卒業までの6年間を振り返る「西田の丘のクロニクル」を読みながらローストビーフをほおばり、6年間のフォト DVD「14期生のメモリー」のスクリーンを見上げつつワインを空ける。あっという間の2時間でした。同窓会からのお祝い金報告を兼ねて会報を配布しましたが、維持会費や寄付金の説明の時は、もううるさくて、うるさくて・・・。

2次会は趣向を変えて近場の和風宴会場でカラオケ合戦。出席を7割と読んでいたら、51名が出席、出席率96%。『幹事！喰い物が足りない！』『幹事さん！日本酒と焼酎とマイク持ってきて！』いやはや元気な70歳でした。さらに元気な老老男女は荻窪駅界隈で3次会。事故もなく無事に終わりましたが、『次回は77歳誕生日になっ！』って言ったら、ブーイング。『毎年やれ！』だって。ごきげんよう。

13期6年3組クラス会

13期生(S31年卒) 浅野 弘

● このところ毎年恒例になりました13期卒6年3組柏組のクラス会を11月9日(日)新宿中華レストランで行い、クラス員11名(男9名女2名)と他クラスより3名、更に今年5月にご逝去されました渡辺君の未亡人と西田小を昭和59年卒業のご子息、合計16名で”渡辺君を偲ぶ会”として、いつものように大いに飲み、食べ歓談、渡辺君と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。渡辺君はその人柄からたくさんの人と交友がありました。仕事に、遊びに活躍されておられ早世は本当に惜しまれます。奥様とご長男を交えて故人の思い出、小中学校・荻窪の思い出話で時間のたつのも忘れませんでした。ご冥福をお祈りいたします。来年2月には”新年会をやろー”と盛り上がりました。今後このクラス会を更に広げて卒業60周年記念には3組合同のクラス会を検討したいと思います。



後列左: 浅野、斎藤、志摩、竹内、東條、
中澤、野口、井手
中列左: 中田、小林、井口、半澤(吉田)
田苗(中川)
前列: 奥様とご長男

16期6年3組クラス会

16期生(S34年卒) 吉田 博

● 平成26年11月18日 新宿のレストランで、87歳で益々お元気な大塚常三郎先生を囲んで行いました。先生は毎年“こころのまつり作陶展”を開催し、陶芸家として精力的に現在も活躍中です。

クラス会の参加者はちょっと少なくて10名ほどでしたが、昔話やら級友の消息やら今の活躍ぶりなどを、話したり笑ったりしながら、楽しいひとときをすごしました。



後列左より; 吉田、磯野、岩見、鐘、
玉澤、西田
前列左より; 富田、西川(小山田)、
大塚先生、
田崎(伊井)
()旧姓・敬称略

21期6年4組クラス会

21期生(S39年卒) 世良 隆明

● 今年の5月24日(土)に吉祥寺第一ホテルにて旧6年4組のクラス会を開催しました。前回は還暦祝いとして、2011年10月に開催していますので、2年半ぶりに集まり、みんな和気あいあいと楽しいひとときを過ごしました。余公先生もお元気な姿を見せてくださり安心しました。先生も含め18名が集まり、また来年春頃に開催することにしました。先生は今年で86歳となられるため、今後は毎年開催しようと考えています。



＜3列目＞ 小嶋、世良、高木、宇田川、鈴木、武藤
 ＜2列目＞ 武村(村井)、田中(春日)、上野(小林)、
 中谷(満江)、並木(津田)、中野、竹口
 ＜1列目＞ 熊倉(吉田)、大野、余公先生、石丸、
 長谷川(会田)

写真の名前を記します。()は旧姓

17期同期会

17期生(S35年卒) 田辺 恵一

● 2013年(平成25年)に第3回17期同期会を開催しました。2010年の準備会を経て、2011年12月に1回目の同期会(21名)を開催し、それ以来毎年12月に実施しています。3年後の2017年には70才の節目である古希を迎え、さらに3年後、東京オリンピック2020年には卒業60周年の記念すべき年となります。

ベビーブームの中に生まれ育ってきた団塊の世代の私たちは社会に大きな変化と経済の発展をもたらしてきました。そんな時代を駆け上がってきてゴールが見えてきた昨今、これからどんな人生が待っているのか？またどんな人生を送っていくべきなのか？同期会はそんな話題を仲間と語らう良い機会になっています。街づくり、社会貢献、介護など様々な活動分野の担い手に、その手腕を発揮している体験談はこれからの人生に有意義な支えになっていくと思っています。この同窓会たよりをご覧ください、仲間入りをお考えでしたらご連絡ください。同期会は各クラスの世話人のご協力を戴き同期会として開催しています。



後列左から: ③田辺⑥石川
 ⑥館林⑤南雲①小川④釜井
 (堀田)③平家①右田①山本
 (蟻川)③米山④楠①日下部
 前列左から: ⑥小島④山本(大
 場)⑤飯田(綿貫)⑥小川(浅
 井)③松永(高橋)
 ()は旧姓

第3回同期会 2013年12月7日 荻窪 かふえほーるWith遊にて

各世話人の連絡先は下記のとおりです。

1組 小川 隆	167-0052	杉並区南荻窪 1-11-6	3331-4679	papatakashihr13sicg@jcom.home.ne.jp
2組 武田 修一	167-0051	杉並区荻窪 3-9-6	090-8582-0465	headnine10.take@tbu.t-com.ne.jp
3組 横川 和則	167-0051	杉並区荻窪 1-56-15	080-6792-0413	k_t_ykkw@ybb.ne.jp
4組 山本(大場)醇子	167-0052	杉並区南荻窪 1-10-13	5930-3435	0133736702@jcom.home.ne.jp
5組 飯田(綿貫)典子	168-0081	杉並区宮前 2-21-15	3334-7857	noriiida@jcom.home.ne.jp
6組 小島 和明	166-0051	杉並区荻窪 1-18-38	090-6521-6438	kojima.k@jcom.home.ne.jp
代表 田辺 恵一	167-0051	杉並区荻窪 3-46-16-101	080-5099-0611	tanabe3911@mail.bbexcite.jp
かふえ & ほーる with 遊 6661-2336				

19期6年1組クラス会

19期生(S37年卒) 安藤 公一

- 2014年(平成26年)11月8日荻窪南口・仲通の焼き鳥「とん吉」で、2年ぶりに第9回191会(ひとくい)を開催しました。住所が判明している39名中16名、二次会を入ると延べ17名の参加をみました。笑顔や会話はあのクラスそのまま、あっという間の3時間でした。前期高齢者突入の65歳ということで定年退職者が増え、教養&教育:“今日用がある”&“今日行く所になる過ごし方をしているようです。



前列: 左より 山崎、高松(旧・武川)、
塩谷(旧・若林)
中列: 左より 高橋(正)、柴谷、高橋(進)、
落合(旧・伊藤)、上平(旧・西田)、
西田
後列: 左より 安藤、米山、佐久間(桃
二)、本間、岡崎、中林、浅見(旧・
大澤)、柴山

24期生(S42年卒) クラス会幹事

田中 宏明 加藤 桂子

24期6年1組還暦をバネに

- 平成26年7月20日(日)に荻窪「オリーブ畑の仲間たち」で開催。

卒業後まもなく一度集まった記憶はあるが、
さてあれはいつのことだったか・・・。

遠い昔の再会から40年近くたった今年、2回
目となるクラス会を開催する運びとなった。

クラスメートは共に60歳。遅かれ早かれこの
1年で還暦を迎える、そんな区切りの年である。

アメリカに嫁いだクラスメートの里帰りに合せ
て7月下旬に開催することを決めたのが、ゴール
デンウィーク明け。まずは卒業時の名簿を頼りに、
幹事役二人で手あたり次第に連絡を開始した。

転居先が分からない人が多いなか、口コミ、更には
メールやフェイスブック等々現代科学の力も借り、47名中、21人の所在が明らかになった。一方で4名のクラ
スメートがすでに他界していることも知ることとなってしまった。

もっと早い時期に開催していたら・・・と悔いも残る。しかし、そんな中、担任の水谷先生(写真の右最前列)
がご健在であったことは嬉しい限りであった。当日は男子6名、女子7名に先生を加えた14名が参加。時間
がたつにつれ、貸し切りのお店はまるでかつての教室のような賑やかさであった。当時の1日分の授業時間
に匹敵する4時間超えの宴が終わり、小学生から60歳へ。3度目の再会を約束し、少年少女はカボチャの
馬車に乗ってそれぞれの家路についた。



再会を祝し全員で乾杯

懐かしい卒業写真



先生いつまでもお元気で

先生方から近況報告とご寄稿をいただきました。紙面の関係上一部手直しさせていただいておりますことをお許し願います。

舟生 清先生 S47年～50年校長先生 95才

私が西田小にお世話になりましたのは、かれこれ40年ほど前のことになります。月ごとに送られてくる「西田の丘」を見ながら懐かしく拝見し、ますますの発展を祈念しております。

「教えること」「祈ること」

わたしの家から徒歩5～6分の距離に善福寺公園がある。その時々に合わせて催し物がある。

「子供の日」の頃には「鯉のぼり」が池の上に泳いだり、「文化の日」の頃には「芸術作品」が森の中に掲示されたりと。「七月七夕」の頃には、大きな「若竹」がしつらえられ「たんざく」も備えられる。それぞれの人の思いが込められて「星」に願が届くようにと。数年前のことである多くの「たんざく」の中から目に飛び込んできた。「クラスみんなが元気で、かしこく育ちますように！」と。校名、担任の名前も記入されている。「教えること」まさに「祈ること」につらなるといことである。自分がかって小学校の教師であった頃のことを思い出す。未熟な教師であることを棚にあげて、子供たちに怒りをむけていたことを。この「たんざく」を見た感動を、分かち合うべく、早速その校長さん(面識はなかった)にお知らせしたものである。今、思い出してもうれしい「善福寺公園の七夕」の光景である。

柏 光枝先生 S31・35年卒業生ご担任 85才

昨年は左、今年は右股関節の手術を受け、左右とも金属の入った脚になり歩行が緩慢になってしまいました。毎朝ラジオ体操をし週3回ほどプールに通い水泳と水中歩行をしてリハビリに励んでいます。85才になりましたが何とか元気に過ごしています。

さて、私が女学校(現在では高校)の生徒だった年、西田の校舎が出来、私の母が桃二小の教員から移って創立した西田小の教員になりました。母が日直当番の折とか、用が出来た時とか西田小を訪ねることがありました。新しい校舎はまぶしいほど美しかった記憶があります。その後、戦争のため学童疎開があり一時兵舎となったこともあって、集中的に爆弾を落とされて廃じんと化してしまいました。それから何年かたって私が教員になり、奇しくも西田小に赴任した時はバラックの校舎も残っており窓ガラスの壊れたところにはベニア板が打ち付けられていたりして、うす暗く、区のお役人が視察に来たとき「ジャングルの中みたいだね」と言われたそうです。そんなことを思い出します。赴任してからは毎年校舎の増改築があり、まだ校庭の隅のほうから不発弾が見つかることなどありました。私が西田小に在職したのは9年間で、立派な校舎にもなっていました。その間、父母の方々も熱心で、よく協力してくださって立派な学校に成長していました。のびのびしていて優れた子供たち、協力を惜しまなかった父母達、職員室の雰囲気も和やかで教えられることも多かったです。その伝統が今も続いていると思うと懐かしさがこみ上げてきます。

熊沢 孝先生 S27年卒業生ご担任 88才

私は中央区立常盤小学校長を最後に退職し27年がすぎました。いくつかの教育関係を持ちながらなんとか過ごしています。西田小では1回しか卒業生を送り出していませんが、その1回の卒業生が私にとって何にも勝る宝物です。今でも手紙、電話、来訪などで消息を知らせてくれたり、時折クラス会で元気な姿を見せてくれます。嬉しいことです。また、この会は結びつきが強く、ある時車椅子生活を余儀なくされている級友を「彼を元気づけるには恩師に合わせるのが一番」とばかりに数人で助けながら来訪してくれました。彼らの友情の厚さ純粋さに涙が止まりませんでした。我が教え子たちは最高です。昭和24年～27年の3年間在籍していました。9期卒業生の卒業とともに中野区に転任することになり愛する西田小を離れることは断腸の思いで後ろ髪をひかれる思いでした。同窓会誌にもまた会長さんのお言葉にも「西田小はとても優れた学校だ」とありますが私も強くそう思っています。昔から優れていたと思っています。その当時は戦後の混乱期にありました。「6・3制。野球ばかりがうまくなり」という風刺川柳のとおり姿もありました。そのような中で、西田小では校

内研究を怠らず、心理学者を講師とし、質の高い教育を求め実践していたのです。先生方は毅然として学究的研究を重ねていました。今思うにその行動には敬服させられます。また、父母の皆様も教育の重要性を認識され、ある時は「父親の父兄会も」と要望され夜間に開くことになりました。議題は「記憶力」でした。その頃北海道大学の中谷博士が中央公論に混乱の世を案じ「記憶のすすめ」を寄稿されました。それを材料にお父さん方が深夜にいたるまで熱く話し合われました。父兄の教養の高さ、質の高さに感服させられました。驚くべき学校といえます。西田小の益々の発展を祈っております。

★おたより有難うございました。先生方には、ますますお元気でお過ごしいただきたいと念じております。そしてクラス会や同期会で教え子たちに会ってください。

恩師の思い出

10期生(S28年卒) 河西 宏和

ここに紹介させていただくのは、平成25年11月に教育新聞社のコラムに掲載された記事です。約62年前、西田小学校で教育に情熱を燃やしておられた一人の卓越した先生に関する私の思い出を綴ったものであります。幸運にも西田小学校の現校長、本徳文恵先生がこの記事を目にされ、当時の西田小学校の様子と歴史を知ってもらいたいとのことで全教諭に回覧されたとのことを聞き嬉しく思っております。伝統ある西田小学校、そこで教育の本質を貫かれた先生、卒業生誰しもが慕うその人こそ“岸上 修”先生です。今尚お元気でられます岸上先生が存在が世に広く知らされたことを私は嬉しく、そして誇りに思っています。先生にはいつまでもお元気でお過ごしいただき、私どもを見守っていただけることが望みです。



昭和25年8月。第2次世界大戦の戦火を浴びて校舎が全焼し、ようやく復興途上にあつた東京都杉並区立西田小学校には、運良く小いプールが造られた。全校児童が1日で使用するにはあまりに小さいそのプールは、夏休み中の1週間を、児童の居住する7つの地区に分け、交代で水泳訓練が行われた。しかも、水着に着替える更衣室がないため、午前女子、午後男子と、使用は細分化されていた。灼熱の太陽が照りつける午後2時ごろ、その日は私の所属する地区がプールを使用できる日にあつた。もちろん、各家庭にクーラーなど皆無で、燃えるような8月の炎天下で仲間たちと水飛沫を上げ、喜々として泳ぎ回る彼のその日の姿は、後の岸上先生の教諭としての昇進と

教育者のマニュアルと実施

河西 宏和

師範月美術館理事長

「先生、今日は結構な地区がプールに入れ

る日ではないんです。暑くて家にいられたら、どうしても水に入らなくて来てしまいがちです。衝撃的でした。」というのが彼の

燃えるような8月の炎天下で仲間たちと水飛沫を上げ、喜々として泳ぎ回る彼のその日の姿は、後の岸上先生の教諭としての昇進と

前はこの場面を記憶しておられなかった。真の教育に対する情熱とそれに対する日々の努力が無意識にこの判断に連なつたと思えてならない。

マニュアルに従つた教育を授けることさえしはし困難がある今日の教諭の世界ではあるが、取り決めた乗り越えての状況判断が真の教育そのものに大きく連なるのではないかと。巡り来る夏の日を迎えるたびに、私は半世紀以上も前のあの若き日の恩師の、教育者としての姿を想い起すのである。そして、今年もまた、そうだった。

教育新聞

週2回 月・木発行
発行所 教育新聞社
〒100-0051
東京都千代田区神田神保町1-4
代表者 森田 昌雄(3355)7851
(編集・印刷・販売) 森田 昌雄
http://www.kyobun.co.jp/
(印刷料・送料) 2,625円

若い同窓生から[母校での職場体験]

松溪中 2年生 佐藤 和人さん(平成25年卒)

ぼくは、1週間の職場体験でさまざまなことを学びました。

なぜ、西田小学校を選んだかというところから、将来、人になにかを教える職に就きたいからです。ぼくは、職場体験を通して「あいさつが大切」と感じました。中学校では、あいさつを教えられる側ですが、逆に小学生にあいさつを教える必要はありません。何回か会っている児童は「おはようございます」とあいさつをしてくれるのですが、まだ、初対面の児童に自分たちから積極的に声をかけることがあまりできなかったのも、もっと積極的に声をかけないといけないと思いました。小学校には六つの学年があります。六年生には普通に感じる話でも、一年生となるとまた別です。この仕事には、それぞれの場での的確な対応とコミュニケーション能力が必要だと感じました。また、主事さん達の仕事や事務の仕事を手伝わせてもらい小学生のときはわからなかった仕事もわかりました。この経験は、小学校の仕事以外でも役に立つので、忘れないようにしていきたいです。ですが、一番心に残ったのは「楽しい」ということです。授業中や給食の時間、また休み時間には一年生といっしょに「逃走中＊１」をしたりしました。頑張って将来このような職に就きたいと思います。＊１：役をきめた鬼ごっこのようなもの。少人数から大人数まででやる。

松溪中 2年生 大石万里子さん(平成25年卒)

職場体験で一番学んだこと、それは教えることの難しさでした。

例えば、一年生の、木を描いて‘せみ’を折り紙で作って貼る授業のとき、画用紙に木の絵の描き方や、‘せみ’の折り方を教える手伝いをしました。そのとき、木が生える方向に色を塗るように伝えてうまく伝わりませんでした。また、五年生の授業では、裁縫の苦手な人に上手にできるコツを教えたり、玉結びや玉止めのやり方を教えました。特に玉結びと玉止めは苦手な人がいて指先の使い方を教えるのが難しかったです。その他にも、主事さんの仕事と事務室の仕事を手伝っていただいた時、主事さんも事務室の皆さんも私が大変だなと思った時に、「がんばって」や「だいじょうぶ」と気づかせてくださったおかげで、私はがんばることができました。雑草だらけにならないように暑い日も寒い日も掃除をしてくださったり、事務室の皆さんはクラス分の手紙の枚数を数えてボックスに入れ、それが私たちの手元に届く。そのようなことを小学生の時には考えたことがありませんでした。授業以外で支えてくれる人達がいることにあらためて気づきました。この職場体験を通して、教える側の大変さや先生の考え方や苦労を知り、大変だなと思いました。その反面、嬉しいこともたくさんありました。一年生に「大石先生」と呼ばれたり「一緒に遊ぼう」と言われたことです。とても良い職場体験でした。ありがとうございました。楽しかったです。

[職場体験]

松溪中学校ホームページより

恒例の2年生職場体験学習は、多くの成果をあげて無事終了いたしました。社会体験活動を通して自己理解を深め、大人と関わる中で自分らしい生き方を、少しでも考えることができましたと思います。

2年生97名の生徒は、40の事業所にわかれて体験学習に参加しました。「任された喜び」、「認められた喜び」が生徒の自信に繋がったのではないのでしょうか。戻ってきた生徒たちが、大きな声で挨拶や「ありがとう」と言えるようになったと思うのは、気のせいばかりではないと思います。

今回の体験学習実施におきましては、生徒を支え励ましていただきました2年生保護者の皆様、いろいろな事業所を紹介いただきました保護者の皆様、快く職場をご提供いただきました事業所・地域の商店、ご指導いただきました各事業所の皆様など、多くの方のご支援で実施できたと考えています。

生徒たちは、体験活動中の人と人とのふれあいを通して、自己を見つめ、自らの生き方を考えていきます。そして、将来を切りひらいていく「生きる力」を身につけていきます。将来社会の入り口でつまづかないためにも、この職場体験学習は有意義だったのではないのでしょうか。今回の体験活動を、生徒たちが夢に向かって羽ばたく一歩ととらえるよう、今後も指導を続けていきます。

60年ぶりの西田小界限

10期生(S28年卒) 大森 達雄



Fig. 1. 旧教室内の祝勝会 裸電灯が象徴的 昭和25年頃か

旧教室内の祝勝会 裸電灯が印象的 S25年頃



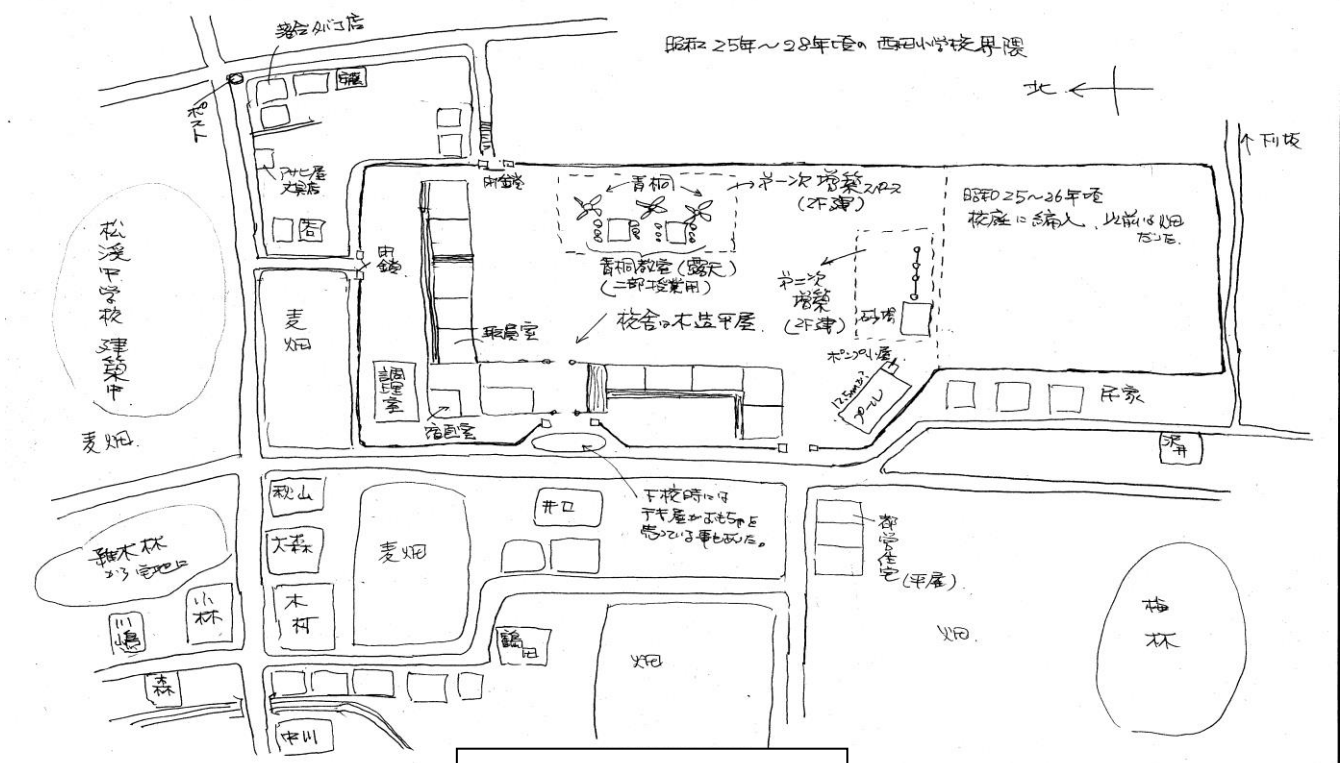
Fig. 2. 新校舎の後ろに旧校舎が見える 昭和28年2月撮影

新校舎の後ろに旧校舎が見える S28年2月撮影

私は昭和15年生まれの74歳のおじいさんです。本人はそうは思っていないんですが。縁あって60年ぶりに荻窪を探訪する機会があり、60年の歳月の変化を実感しました。私は昭和24年の秋に学習院から西田小学校の3年生に転入しました。西田小学校の至近距離の西田町456番地には3歳の頃から住んでいました。残っていたものは極論すれば一部の道路と一部の川と橋だけでした。幸いなことに西田小学校はありましたが、西田町は荻窪1丁目となってしまいました。「西田」の地名は学校にしか残っていないみたいでした。

昭和28年に卒業するまでの3年半の出来事を薄れた記憶をたよりに記します。当時はまだ戦後まもない頃で二部授業というのが残っており1年弱でしたが、教室が足りないので校庭で一般教科の授業を受けるのです。

校庭にはそのためのベンチと机が用意されていてピクニックみたいなものです。そのくらい生徒が多かったのです。これを「青空教室」とか校庭の木の名前にちなんで「青桐教室」と呼んでいました。



昭和25年～28年頃の学校と周辺

人があまりやらない楽しい遊びを次から次から考え付き「私はなんて頭が良いのだろう」と、今でも思っています。以上、爺さんの独り言でした。



今も昔も変わらない懐かしい田端神社の秋祭り

記事 中澤



趣味でかつやく

皆さんブルーグラスという音楽をご存知ですか

13期生(S31年卒) 井口 良佐

皆さんブルーグラスという音楽をご存知ですか。これはアメリカで1940年頃に誕生した、民族音楽から発祥した音楽です。元々はイングランドやスコットランドからの移民が口伝えに口ずさんでいた民謡が、木こりなどが歌うマウンテン・ミュージックになり、それを聞きやすくドライブ感が加えられてブルーグラスになりました。名前の由来は、最初に演奏したバンド名「ブルーグラス・ボーイズ」から、またそのリーダー「ビルモンロー」の出身がブルーグラスステイトであった事などであると言われています。一番の特徴は楽器編成が電気を使わないアコースティックである事です。ギター、ベース、バンジョー、フラットマンドリン、フィドル(ヴァイオリン)が一般的で、その他にドブロギターやハーモニカなどが入る場合があります。

私たちのバンド「ブルーマウンテン・ボーイズ」は名前の通り青山学院大学で結成された学生バンドでした。私はバンジョーを担当していますが、大学に入り初めてこの楽器に触れました。先輩に習って1年ほどで同期のメンバーとバンドを組んで文化祭などで演奏できるようになりました。丁度その頃にアメリカでフォークブームが起こり、ベトナム戦争への反戦歌などでボブディラン、ジョーン・バエズなどが脚光を浴びました。後にウッドストックなどのコンサートイベントも話題になりました。日本でも関西と東京でアマチュア学生フォークのブームが起こりました。1回のコンサートに5~6バンドが出場します。

一緒に出演したバンド仲間としては、マイク真木さんが所属した「モダン・フォーク・カルテット」、黒澤久雄さん達の「ブロードサイド・フォー」、小室等さんのバンド、森山良子さんなどでした。後輩バンドで細野晴臣さんもアマチュアバンドで出演していたそうです。メンバーはそれぞれ就職し、私もレコード会社の制作の仕事が忙しくなり、バンド活動は行っていませんでした。50歳を過ぎた頃に何となく「またやろうか・・・」ということになり再結成となりました。その頃のメンバーでまた元気に演奏できるのは幸せなことです。出演はフォーク専門のライブハウスや学生時代の同窓会、お知り合いのご子息の結婚式、高齢者の趣味を楽しむ会など様々ですが、「年をとっても頑張っています」がキャッチフレーズです。懐かしい時代のプログラムや演奏は下記ホームページ「昭和ダイスキ~ブルーマウンテン・ボーイズ」をご覧ください。

<http://syowadaisuki.web.fc2.com/bmb2sp.html>



趣味が高じて

5期生の中村通敏さんは荻窪出身ですが、大学と就職先の関係で永く福岡にお住まいです。そこで古代史の研究者になってしまわれたのです。

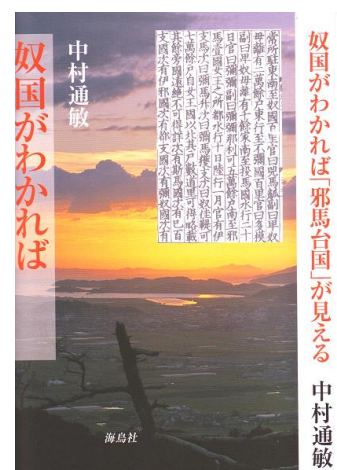
九州は遺跡も多く、謎に包まれた地域です。古代九州王朝が見えてきます。今回「奴国がわかれば邪馬台国が見える」という本を発刊されました。第2期生の田村晋一郎さんに贈呈されたものを拝見させていただきました。興味深く読ませていただきました。

・本をご紹介します。歴史にご興味ある方は是非。

著者： 中村通敏

発行元： 海鳥社

題名： 奴国がわかれば「邪馬台国」が見える



記事 中澤

ピアノに想いをこめて

平成16年卒業の田辺 望さんは小さいときからピアノに親しみ、音楽の学校(尚美学園大学)で作曲・ピアノなどを学び、このたび荻窪を愛する仲間たちと協力して「故郷は荻窪」という歌の作曲をてがけました。曲はとても優しいメロディで心が癒されます。世代をこえて故郷を愛する歌として歌いつないでいけたらと思います。

・CDをご紹介します。ご興味ある方は是非。

作詞 山下 啓義 編曲／ギター 原田 公一郎
作曲／ピアノ 田辺 望 ヴォーカル 北村 梨理子



<http://cafewithyou.web.fc2.com>

近隣の歴史ばなし

3期生(S21年卒) 土屋 忠夫

私は旧西田町で生まれ、現在の杉並第二小学校に入学しました。3年生の時に、西田小学校が開校し早速転校しました。商社マンとしてアメリカ、ドイツに11年住んだほかは殆ど旧西田町に住んでいます。3人の子供の内、長男だけが3年生まで西田小に通いましたが、それ以後は3人共に海外の小学校にお世話になりました。学校時代では、歴史が苦手だった私が、不思議なことに、老後になって、地域の歴史に取りつく事になり、すでに15年ほどになりました。この経緯については機会があればそこでお話します。

西田町には古くから、人が住んでいて、昔は田端村と呼ばれていました。浅く掘った井戸から良い飲み水が得られ、すぐ近くに水田を作ることが出来る、低い台地が当時の居住地の条件でした。(高い台地では簡単に水が出ない)鎌倉幕府に属する半農武士が、普段はお米を作り、召集があれば「いざ鎌倉」で馳せ参ずる様子だったので、今はその辺の歴史資料はなく、ただやたらに鎌倉街道を名乗る道が残ることで想像するしかありません。江戸時代になると、歴史資料も出てきます。

右上の表は、二三の資料を纏めたもので、この検地記録で前述の想像が当たっていると判断できます。更に、表の注目点は検地役人として「岡部小右衛門」の名が記録されていることです。1590年に「小田原の役」があり、小田原城の後北条氏が豊臣秀吉軍により滅ぼされます。秀吉の傘下にあった徳川家康が江戸城に入り、世に言う「戦国時代」が終わりました。

小田原の役で北条側で中堅として活躍していた敵側の岡部忠吉、正吉親子を徳川家康が気に入って戦後直ぐに自分の家臣に加え、旗本として成宗村と田端村の領主に取り立てたという話があります。岡部氏の領主の時代が100年近く続き、岡部氏代々の墓所が近所の旧成宗村の天桂寺にあります。(右の写真)

井伏鱒二の小説「荻窪風土記」によれば、岡部氏と同じころ、下荻窪村の領主が忍者で有名な服部半蔵正成だったという話が出てきます。

徳川氏の傘下にいた半蔵と、北条側の岡部忠吉は、小田原では敵味方だったので、実際に相まみえた事と思われますが、証拠になる資料もありません。服部半蔵は実在の武士で、墓所が四谷駅近くの西念寺にありますので、家康が江戸城の西側の要所警備に実力者を配置した可能性は十分あると思います。今回はここまでです。続きは次の機会です...

成宗・田端村の検地記録...岡部氏

時期	成宗村	田端村	検地役人
慶長16年(1611)	●旗本領		岡部小右衛門
寛永14年(1637)		●旗本領	岡部小右衛門
正保年間(1644-48)	208石 (内水田138石)	223石 (内水田134石)	
寛文2年(1662)	318石(旗本領)	300石(旗本領)	
宝暦8年(1758)	320石(天領)	314石(天領)	
文化13年(1816)	水田 18町歩 畑 43町歩		
明治5年(1872)	耕地面積 62町歩	耕地面積 69町歩	





周辺探訪

幻戯山房(角川庭園)

◆近代数奇屋造の邸宅で、幻戯山房～すぎなみ詩歌館～として、展示室、詩歌室、茶室

この庭園は日本文学研究者で俳人でもあり、角川書店(現KADOKAWA)の創業者である角川源義氏のご遺族が区に寄贈された邸宅で、邸内を整備し、2009年(平成21年)に開園された公園で記念館となっております。荻窪のゆるく起伏する台地で当時(昭和31年頃)の田園風景を見渡せる地形のなかに築かれた邸宅で、四季を通じて草花を楽しむことができ、和室・茶室もお茶会や俳句の会などに利用されています。



【住所】 〒167-0051 荻窪3丁目14番22号

【電話番号】 03-6795-6855



写真ご提供 田村晋一郎氏(第2期卒)平成26年撮影

角川歴彦氏に聞く

(株)KADOKAWA会長 角川 歴彦様

中澤:お久しぶりです。本日はお忙しい中、お時間戴き有難うございます。お願いしていましたが、年に1回発行している西田小の会報の記事に角川さんのお話を載せたいと思いまして・・・。

角川:いや、僕は西田小学校の出ではないのだけどなあー。

中澤:西田小の会報は西田小中心ですがいろいろな方々から広く記事戴こうと思っています。また今回は周辺探訪ということで角川庭園を、昨年は大田黒公園でしたが記事にしたいと思いました。

角川:そうそう昨年は大田黒でしたね。そういうことなら、家の事とか荻窪の思い出とかで難しい話はなしということでは・・・。

中澤:わかりました、ところでお生まれはどちらでいつごろから 西田町へ。

角川:僕は荻窪で生まれ、小学校時代は天沼に住んでいましたね。小学校は杉並五小です。その後、父があそこに家を建てようとしたんですが、方角が悪いということで、いったん西荻(大宮)のほうに引っ越し、それからだったんですが、地主さんがなかなか手放してくれなかったそうで、祖母のたつての望みなので何とか譲ってくださいと何回も何回もお願いしたそうで、住んでから父はとても気に入っていました。

中澤:小高いいい場所ですすね。当時団地はありましたかねー。

角川:その時は団地がなかったので一面、田園風景で見晴らしがよかったです。ところが台風がくると田んぼが湖になってしまっただけ。

中澤:そうでした荻外荘の池の鯉まで出ていましたね。

角川:その後団地の建設が進み父は景観が失われてしまうとがっかりしていましたね。

あの家は母の持ち物で亡くなったので区に寄贈したもので、はじめはどうなるものかと心配しましたが区長さんが良い方で記念館にして立派に管理していただいて皆が喜んでます。

角川:こんなこともあったな、朝、団地からタクシー相乗りで見ず知らずの人と乗り合わせて荻窪駅まで乗車、一人100円くらいで、会社に勤めだしてからだったかな。

中澤:ところで早稲田高等学院に行かれたんですね。やはり、出版・報道関係は早稲田ですからね。

角川:そういうことではなく姉の恋人(将来のご主人)が学院の良いことばかりを話すので、だんだん学院へ入学

したい気持ちが高くなって、それで何としてでも入りたかったですね。

中澤:早稲田での倶楽部活動は。

角川:ブラスバンドに入りましたよ。楽器などやったことが無かったけれども、これも姉のご主人の影響でブラスバンドに憧れたわけで。

中澤:ブラスバンドだと早慶戦など応援に駆り出されて大変だったでしょう。何を担当されてたんですか。

角川:いや大変でしたよ。でも楽しかったけど。フルートをやってました。

ここからしばらく松溪中学校時代(西田小・桃井二小など昭和31年卒業組)同期生の話がはずむ。

角川:学校には坂をおりて小さな川を渡って善福寺川を越えればそこは松溪中だったですよ。今でも思い出すのは狭い道をバスが通っていて、よくこんなところを通るなと子供心に思いましたよ。

中澤:今でも同じ道をバスが走っていますよ。

中澤:ところでチョット本の話をしたいんだが。

角川:本の話は毎日しているから、勘弁してよ…。笑…

中澤:子供の時に本に接することの大切さから小学校の図書も最近は充実してきているようですよ。

角川:それはいいことだね。

中澤:僕が心配なのはITが進み活字を読んだり、書いたりすることができなくなってしまうかと。

角川:心配することはないよ。その時々で、それなりに文化は生まれてくるんだよ。

中澤:ところで日本というのは不思議な民族でくずした文字とかがあって中国は四角張った漢字でしょ。

角川:それはちがうだよ。中国でも昔から漢字のくずしはあるんだから。

中澤:そういえば、中国にもありましたね。それにしても、日本の文字はひらがなやカタカナや複雑ですよ。

角川:日本語の書き文字は漢字が無かったら生まれなかったし、日本語は漢字の一語一語に合わせているわけですよ。漢字というものを介在しないと日本語の標記というものはできなかった。一字一字にたよっていたわけですからひらがな、カタカナ、がうまれたわけですよ。万葉がなというのは4音だったら4つの字がついているわけで、それなりの、その時その時の発明でね。古事記ができたのが8世紀で1200年前以前は文字がなかったのですから、日本人が文字を習ったというのは実に世界の歴史から見て短いんですよ。日本は島国だからね。

中澤:たしかにエジプトなんかは紀元前にくさび文字があったですからね。

角川:そういうこと。ヒエログラフィなどずっと先行していたわけですからね。日本は世界から取り残されて、だから多様な文化を生み出せたのかもしれないけれどもね。ほこりにしていいいんだけど。

文明の先進性でいえば日本は先進的ではなかった。

中澤:文化の多様性というのかなそういうものがまた最近は…

角川:僕たちが子供のころはマンガは読んじやいけないといわれて親に隠れて読んだものでした。いまや一つの表現方式として世界に認められているし、今ではゲームがそれにかわっているわけだからマンガがだめでゲームがだめでということはいえないのでは。マンガをあなどってはいけないし、ゲームもあなどってはいけない。そこから得られるものがあるかもしれない。そのほうが進歩的なものかもしれない。

話は違うけど、先日小平霊園に父の墓参りをした帰りの電車で座席の誰かが本を読んでいない。老若男女全員みんな携帯ですよ。がっかりしたけどしょうがないし、その中で表現することを考えていかないといけないと感じたね。子どもの時のTV時代、TVに明け暮れていたころ、大宅壮一氏が「こんなことでは一億総白痴になってしまう」といっていたけれど、TVで育ったが結局誰もならなかったしね。笑い…

いろいろとお話をさせていただいて、最後に角川氏は荻窪の西田町(旧地名)の周辺の環境をみんなで守り維持されることを望まれておられました。角川氏はいろいろな文化をいろいろな形で表現する、そして広めるために、あらゆる情報のツールを求めて研究・実践しています。角川氏の心の広さを感じました。今回のお話の中ですべてを享受し咀嚼^{そしやく}することが大事だなと感じました。頑固な爺の反省…

角川様ありがとうございました。

記事 中澤

会員のメッセージ

この1年間にいただいた会員の皆様からのメッセージです。会報発行が年1回なので、若干、時間のずれが出ておりますことをお詫びします。ご了承ください。(敬称略)

- 山田暁子 2期: 田園風景の中にたつ昭和20年前後の西田小学校が懐かしく思い出がいっぱいです。整形外科にかよう年となりました。
- 北岡靖博 3期: 8月21日毎日35度以上がつづき日中は外に出ることができない日が続きます。今週中が暑さの峠になるのではないかと、無理をせず毎日を過ごしています。
- 志甫 博 5期: 同窓会活動にあたられる皆様にお礼申し上げます。国民学校の最初から最後まで学んだ西田はいつまでたっても昭和20年の面影を私に残しています。荻窪から離れて年月が経ちましたが同級生の顔を忘れることはありません。
- 朝山若葉 5期: 役員の皆様には大変お世話様になりありがとうございます。私たち3期4期5期は親元を離れて長野県に集団疎開をして、1年ほど集団生活を体験したものです。当時5期生は遠い長野の家でよく泣きました。現在では想像も出来ないことでしょうね。
- 浅野純子 7期: 趣味でやっていた写真が仕事になり、インターネットの旅ビレッジというガイドブックに作品を提供しています。名入りですからフォトブックをご覧ください。
- 岩屋スミ子 8期: どうにか元気に過ごしています。遠方まで会報送付有難うございます。
- 宇治川多嘉子 9期: 現在は杉並区政モニターをしております。クラス会にも出席しています。同窓会たよりはいつも懐かしい。
- 横田佳代子 9期: 熊沢先生の米寿のお祝いを計画しています。
- 河西啓次 10期: 卒業年度は宇田川章君と同期です。
- 塚本晋也 13期: 居合道のけいこをしています。これが生活の中心になっており元気に過ごしています。
- 藤本太郎 13期: 会報送付有難うございます。
- 福井惇子 13期: 12月に引っ越し杉並の住人になりました。
- 藤沢友子 14期: 同窓会思い切って行ってよかったです。パワーをたくさんいただきました。
- 小林昭子 14期: 幹事の皆さんお世話様でした。皆さんの懐かしい顔を拝見させていただき本当に元気が出ました。
- 神代光朗 14期: 5月の同期会には体調不良で出席できず残念でした。健康に気を付けながら元気に過ごしていきたいと思っています。
- 谷津寿穂 14期: 70才を迎え、書道のボランティア活動をしています。
- 吉田 博 16期: 大塚先生のクラス会を先生をお招きしてこの11月に開催です。
- 浅野晴夫 18期: 皆様ご苦労様です。まだまだ現役で祖父の代からの葬儀社を守っています。
- 島田真理子 18期: 10年ほど前善福寺の野鳥の会に参加し、カワセミを見て以来、バードウォッチングが大好きになりました。野草や樹木を眺め、名前を調べたりスケッチしたり、どこに行っても楽しい時を過ごせるようになりました。趣味の絵手紙の画材探しを兼ねることができ、足の運動にもなり一石二鳥です。会社勤めを辞め4年、毎日が日曜日の生活となり好きなのところに出かけられる幸せに浸っています。
- 佐藤恭子 21期: 一昨年家族と住んでいた西田小辺りを訪ね松溪中、荻窪団地など懐かしかったです。
- 佐原香織 32期: 地元荻窪と勤務先の千代田区など様々な地域での社会教育、生涯学習分野で実践と研究活動に従事しています。
- 下田祥代 60期: 10月に結婚します。
- 下田康司 62期: 来年社会人になります。

ご報告など

役員会・世話人会より

平成26年6月以降

◆平成26年度世話人・役員会

1. 日時 平成26年10月12日(日)午後4時 旅館「西郊」
2. 出席者 世話人・役員 17名
3. 報告 (1)会員と先生方の動向について
(2)会報の発行について

◆世話人の交代がありました。

1. 黒田陽太郎様、荻野弘子様、新藤一郎様、志田設子様が退任されました。
長い間お世話になり、有難うございました。
2. 14期の小林真人様、平沢宣子様、片山登様が就任されました。
よろしくお願いいたします。

個人情報保護について

同窓会会則により個人情報保護について規定しております。

氏名、住所などの登録情報は名簿管理責任者を決め管理しております。名簿及びその他の個人情報や記事情報などは同窓会の活動(会報送付、同窓会開催、連絡)のみに使用し他への流用はしません。

大変多くの方々に維持会にご参加いただき有難く厚く御礼を申し上げます。

維持会費納入の方々の氏名掲載は申し訳ございませんが、多数のため失礼させていただきます。

維持会費と寄付のお願い

同封の振込用紙にてお願いします。

- 維持会費制度は、基本的に任意です。極力、会員の皆様の煩わしさとご負担を軽くするため7年前に制度化され皆様方のご協力を戴いております。下記の通りです。
 - ・維持会費は年間500円とし、5年分(2500円)を一括してお振込み戴きます。
 - ・維持会費は卒業後20年経過した時点での開始となります。新規にご登録、維持会費のお振込みをお待ちいたしております。
- ご寄付のお願いも申し上げます。
学校の行事支援や周年行事に必要な資金として維持会費とは別によりしくお願いいたします。



編集後記

- 本会報に多くの皆様から寄稿・記事などいただきましたこと厚くお礼を申し上げます。
- 秋に発行する同窓会会報は学校を中心としながらも、広く皆様方から寄稿をいただき構成するつもりで制作しています。また、学校とは縁のない方からも広く記事を集めて幅のある会報を目指します。同窓会の会報はとかく年長者の記事が多くなりがちですので、今回からあえて若い方々に焦点をあてて幅広く情報を掲載していきたいと考えています。春の「同窓会たより」との二本立てとしています。会報は近くに住んでいる方にも又遠方におられる方にも、忘れていた子供の日の記憶を思い起こさせたり、近況をお届けする大切な道具となれば幸いです。何よりほしいものは皆様方からの情報です。更なる皆様からの投稿をお待ちしております。なんでも結構です。



クラス会報告や学校の思い出、随筆など、日頃感じたことや趣味・出来事・経験談・日頃の活動などお待ちしております。

会長 中澤 一郎

■ 広報委員は下記の方々です。(敬称略)

- ・ 編集発行責任者 田村晋一郎 2 期
- ・ 広報委員長 中澤 一郎 13 期
- ・ 広報委員 吉田浩二 12 期、小林真人 14 期、横川和則 17 期、島田真理子 18 期、
安藤公一 19 期、栗田恒雄 19 期、宇田川政幸 19 期、萩原伸一 20 期

連絡先	■会報へのお問い合わせ	田村晋一郎 〒167-0051 杉並区荻窪 3-39-11
		メール :ys-tamura@jcom.home.ne.jp
	■会長へのお問い合わせ	中澤 一郎 〒167-0051 杉並区荻窪 4-24-14
	TEL : 03-3398-5334(FAX同)	メール :nk168ichi@jcom.home.ne.jp

個人情報保護の規定により会員の皆様から頂いたすべての情報は同窓会の活動にのみ使用し 他への流用はいたしません。(会則規定による)
